

|              |   |
|--------------|---|
| 開催地名：大阪府泉佐野市 |   |
| 開催日時         | 令和4年11月4日（金） 13：45 ～ 15：25  |
| 開催場所         | 泉佐野市立中央小学校  |
| 語り部          | 吉田 亮一 （宮城県仙台市）  |
| 参加者          | 4、6年生児童、教職員 208名  |
| 開催経緯         | 本市における小・中学校では、防災教育を、命を守ることをベースとしながら、災害発生の理屈を知ることや、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方等を学ぶこと等をめざして、各校にて発達段階に応じて学習を位置付けて取組みを進めている。一方で、今後の防災活動の重要な担い手となる子どもたちに、南海地震等過去の災害による被害や経験を伝承していく機会は、地震発生からかなりの年月が経過していることから、経験者の減少や高齢化から活動が困難な状況があり課題となっている。  |
| 内容           | <p>（１）防災の基本とは</p> <p>世界中には様々な自然災害が存在している。私たちが暮らす日本でも、地震、津波、台風、火山の噴火、竜巻、豪雪、近年のゲリラ豪雨などが挙げられる。このような自然災害はなぜ起こるのか。難しい問題だが、地球自体が動いており、生きているから、地球上のあちこちで色々な現象が発生し、時にはそこで生活する人間に被害が及んでしまうのであろう。そう考えると、私たちは自然災害と一緒に暮らしていかなければならないということだ。</p> <p>それでは、自然災害と一緒に暮らしていくにはどのような点に気を付けたらいいのか。それは災害について考えるということ、そして行動するということである。自然災害のことをしっかり理解して、危機感を持つということが大切である。そして、想定以上の備えをすることが、防災、減災の基本になる。</p> <p>（２）地震から身を守るために</p> <p>大地震はいつ起こるか分からない。みなさんの家は整理整頓されていますか？ 家の中がきちんと片付けられていないと、夜間地震が発生したときに、真っ暗な中で躓いたりする危険性がある。窓ガラスが割れる可能性もあるし、物が落ちてきたり、家具が倒れてくるかもしれない。想定されることに対して、身の危険がないか確認してほしい。</p> <p>寝ているときに地震が発生したら、“ダンゴムシ”になることだ。立ってうろろせず、布団をかぶって丸くなる。枕元には、靴下、スニーカー、ヘッドライト、防犯ブザー、イヤホン付き携帯ラジオ、雨用カッパの6点セットを入れた防災袋を日頃から置いておくと良い。</p> <p>また、登下校時に地震と遭遇した場合は、揺れから身を守るためにランドセルを頭にのせる、と答える児童が多いが、それだけでは不十分だ。例えばブロック塀は道路側に倒れるようにできているし、看板やガラスの破片が落ちてくる可能性もあるので、頭だけでなく背中もガードしなければならない。後ろに手を回してランドセルの金具をはずし、肩の方からふただけを頭にかぶせる。そして体操座りすることで、全身を守ることができる。</p> |

災害に対する備えについては、東日本大震災以後、食料、飲み水は1週間分を用意しておくよう案内している。災害が起こると、コンビニやスーパーの商品は品薄になってしまうので、少なくとも1週間分くらいの備えは確保してほしい。

### (3) 避難所での小学生の役割 ～ 東日本大震災での経験から

東日本大震災が起こったとき、私の住む地域では全世帯が5日間停電し、ガスは3～4週間、水道は2週間止まった。指定避難所の茂庭台中学校で、17日間避難所が開設され、最大時は200名の方々が避難していた。地域には高齢者と小・中学生しかいなかった。しかし避難所はすぐに開設しなければいけない。避難所でも会社員や高校生は早朝から通勤・登校してしまう。運営には彼らの力が必要だった。避難所で、小・中学生は大活躍してくれた。震災当日、私が一時避難場所にいると、中学生が走ってきて、「避難所の準備ができたので避難してきてください。」と伝えてくれた。避難所に移動すると、中学生が自らのアイデアで避難所の床に柔道用の畳やマットを一面に敷いて私たちを迎えてくれた。その後、避難所内では必要事項の掲示やごみの分別など、小・中学生が自発的にアイデアを生かして行ってくれた。毎朝、避難所を掃除してくれたのも小学生である。

このような経験から、私は年少者への防災教育は非常に重要だと実感した。いざというとき、小・中学生は大きな役割を担ってくれる。防災訓練の担当者をお願いしたいのは、地域の避難訓練や避難所設営訓練にぜひ児童・生徒を加え、受付や設営、炊き出しなどを体験させてほしいということである。



開催地より

防災の基本についてや、災害に対する備えについて、東日本大震災での体験談をわかりやすくお話しいただいた。また、実際に体験させていただき、子どもたちは積極的に参加していた。今後は、学校全体で避難のポイントを共有した上での避難訓練を実施していきたいと思う。